



仙台厚生病院

NST便り・第1号

平成20年5月発行・NST委員会

編集担当：瀬川



NST委員会では今回第1号となる「NST便り」を発行することになりました。そこで最初にNSTとは？・NSTの目的と役割についてお話ししたいと思います。NSTとは様々な職種の医療スタッフ(医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・検査技師など)が患者さんに適切な栄養管理(栄養評価や栄養療法など)を実施するチームです。NST活動の目的・役割として栄養不良患者の早期発見・適切な栄養療法の選択・栄養状態の改善による治療促進・適切な栄養剤・機材・ルートと管理法の選択・無駄な合併症の防止による経済的効果・栄養管理の改善による患者満足度の向上などがあります。

【NSTコンサルテーション適応患者】

- ・摂食嚥下障害の患者・極度の栄養障害・食欲低下・経管栄養(経鼻・PEG)適応の相談・栄養評価・必要エネルギーなど栄養治療計画の相談
- ・褥瘡患者
- ・食欲のない緩和医療・化学療法で栄養状態の悪い患者(緩和医療チームとのコラボレーション)

NSTで栄養評価し、必要エネルギー量を算定、栄養投与方法を提案します。

NST委員会からのお知らせ

経管栄養は専用の栄養カテーテルで！

当院で経管栄養に使用されている胃管カテーテルの状況調査の結果、ほとんど日本シャードのセイラムサンプチューブが使用されていることが判明しました(調査期間:平成19年12月～平成20年2月)。サンプカテーテルは排液用に製造されているため素材的に硬く、サイズも太い(14～16 Fr)ため患者さんの経鼻に固定すると下記の問題点が発生しやすいといわれています。

- 1、鼻翼潰瘍を起こしやすい。
- 2、口径が太いため患者さんにとって違和感が強い。
- 3、コストがとれない。

そこでNST委員会では、経管栄養する場合にはスタイレット付きで患者に挿入しやすく、誤接続防止になっている栄養専用の胃管カテーテル(ニュートリフローフィーディングチューブ)をお勧めします。8階病棟に8Fr・10Frを用意しています。

医療用ポリウレタンを使用しているので留置後適度に柔らかくなり、患者さんにやさしく、内腔が広いので流量が取れる等の特徴があります。またゼオン社製のENカテーテルE、12Frもあります。



第1回・院内ミニ勉強会報告

日時:平成20年3月13日(木)17時30分～18時
講師:中堀消化器内科部長
テーマ:「当院におけるNST活動の問題点と方向性」
参加者:157名
参加者の皆様ありがとうございました。
今後もシリーズで開催していく予定ですので多くの方のご参加をよろしくお願いいたします。



今後の院内ミニ勉強会予定日

- 第2回:平成20年6月10日(火)
テーマ:栄養スクリーニング・アセスメント
- 第3回:平成20年6月27日(金)
テーマ:身体測定の実際

入院患者さんの多くは栄養障害を有しており、栄養管理は原疾患の治療に必要な条件です。NSTでは、患者さんの栄養管理に役立てればと願い、栄養に関する知識・技能を向上させ、栄養評価・栄養療法の提案をさせていただきたいと考えております。ご意見・ご要望などございましたらNSTスタッフにご相談・ご指摘頂ければ幸いです。

NST委員長(消化器内科部長)・中堀